

活動報告

観光政策研究部

「平成28年度観光地経営講座」を開催

当財団は長年、観光・地域振興に携わる行政のご担当者、観光関連団体や観光関連事業者などの方々を対象として、観光についての基礎的な知識を当財団研究員が体系的に解説する「観光基礎講座」と、全国各地で先進的な取り組みをされている実践者や専門家を講師としてお招きして、より現場に即した実践的な知識やノウハウをお伝えする「観光実践講座」を開催してきました（いずれも2日間、当財団にて開催）。

平成26年度にこれら二つの講座を統合し、「観光地を経営する」という観点で基礎と実践の両面から観光について深く学ぶ講座「観光地経営講座」を開設しました。テキストは、

当財団のこれまでの調査研究の成果をもとに、観光地経営に必要な8つの視点をまとめた『観光地経営の視点と実践』（2013年、丸善出版）を使用します。

今年度は「滞在化」をテーマに開催

本講座は、毎年その時の旬のテーマを取り上げ、当財団研究員が課題認識や現状、今後の方向性の考え方などについて解説を行うとともに、その分野の実践者・専門家から、ご自身が携わる取り組みを事例として、抱える課題や、それらへの対応策として成功したことや失敗例、今後の展望などについてお話いただきます。

今年度は、「地域の視点で『滞在化』を考える」地域が取り組むべき課題と解決に向けたヒントを探る」をテーマに、2016年（平成28年）6月23日（木）から24日（金）の二日間、当財団会議室にて開催しました（表・開催概要）。

「滞在化」と一言でいっても、地域特性によって多様な形態があり、地域側に求められる対応策もさまざまです。そこで本講座では、全国各地からの受講者の多様な課題認識に込められるように、リゾート地、温泉地、都市といった幅広い地域の事例を取り上げることになりました。具体的には、スキーリゾート（倶知安町）、高原リゾート（軽井沢町）、温泉地（別府市）、そしてまちなかの空き家の活用（尾道市）という4つの事例を取り上げ、講師として現場での実践者と学識研究者の双方に登壇していただきました。

当日の講義内容の詳細については、別途まとめる「講義録」を参照いただけたいと思いますが、各事例から滞在の目的となり得る快適な環境・景観をどのように形成・維持するか、滞在プログラムをどのように充実さ

せるか、宿泊施設との連携のあり方、地域外からの滞在客、特に外国人旅行者が増えること、地域コミュニティへの影響など、非常に多くの示唆をいただきました。

二日間の講座の最後に、事例をご紹介いただいた4人の講師と、滞在先として温泉地を研究対象としている有識者をパネリストに迎えた総括ディスカッションを行いました。この場で各事例を横並びで見ること、滞在化に求められる事柄についてより深く掘り下げて学ぶことができ、受講者からも活発に質問や意見が出されました。

受講者の理解をより深めるために「コメンテーターとファシリテーター」が解説

今年度は新たな取り組みとして、外部講師に一人ずつ当財団の研究員がコメンテーターとして付きましました。これは、講師のお話をより深く引き出して受講者へ分かりやすく伝えるとともに、研究員自らが培った知見や類似の事例を紹介することなどにより、受講者により深く各事例について理解していただくためです。



担当研究員は講師の方々と事前に、この講座の目指すところや講師のお話から学びたいポイント、研究員自身の問題意識などについて何度もやり取りをさせていただき、講座当日に臨みました。

また、講座全体をファシリテーター役の研究員が進行し、講師と受講者との質疑応答を活発に進めるためのコメントや各講義をつなぐ解説を行い、総括ディスカッションの進行

役を務めることなどにより、二日間の講座が多くの学びを得られる場となるよう努めました。

少人数での開催ゆえに受講者同士の交流も容易に

本講座は定員が24人と少人数であることが一つの特徴です。講師と受講者の距離が近いので、自然と講義後の質疑応答も活発になり、初日の夕方の意見交換会では、少人数ゆえにより深く課題を共有し、お互いのノウハウなどを伝授することも可能です。このようなつながりが、講座終了後に相談をしたり地元の仲間と視察に出掛けたりといった、地域を越えたネットワークづくりにつながることもあるようです。こうしたことも、日頃の業務を一時離れて、同じ課題認識を持つ人々が集まる研修に参加することの一つの意義ではないでしょうか。

なお、今年度は、行政や観光関連団体の方々に加えて、大学や研究機関で観光について研究し、若手や地域にその成果を伝えている教員や研究員の方々の受講が比較的多かったことが特徴でした。

表 平成28年度 観光地経営講座 開催概要

- ◎テーマ：地域の視点で「滞在化」を考える
～地域が取り組むべき課題と解決に向けたヒントを探る～
- ◎開催日時：平成28年6月23日（木）10:00～17:10 6月24日（金）9:00～16:15
- ◎場所：公益財団法人日本交通公社（JTBF）大会議室
- ◎対象：観光による地域振興に携わる地方自治体のご担当者、観光関連事業・商工会議所などのご関係者
- ◎主催：公益財団法人日本交通公社
- ◎プログラム
 - 講義1 観光地経営の視点と実践（JTBF理事・観光政策研究部長 梅川智也）
 - 講義2 旅行市場の動向と滞在化（JTBF観光政策研究部主任研究員 牧野博明）
 - 講義3 滞在型リゾート「ニセコエリア」の現状と課題（倶知安町議会議員 田中義人氏）
 - 講義4 老舗別荘地・軽井沢 快適な滞在ライフを下支えする環境整備のあり方とは（軽井沢町教育委員会 教育次長 森憲之氏）
 - 講義5 暮らすように過ごす、まちの魅力が促す別府の滞在スタイル（NPO法人BEPPU PROJECT 代表理事 山出淳也氏）
 - 講義6 尾道ですすむ、まちなかの資産（空き家）を活用した滞在化の取り組み（東京工業大学 准教授 真野洋介氏）
- 総括ディスカッション
（千葉商科大学 准教授 内田彩氏、田中氏、森氏、山出氏、真野氏、JTBF梅川・岩崎）

2016年8月、当財団は南青山の新社屋へ移転しました。これにより、これまでよりも研修会場を広く確保でき、より快適な環境で研修を開催できることから、「観光地経営講座」も新たな形を模索してみたいと考えています。観光についての体

系的・実践的な知見を提供し、受講者の皆様にとって具体的なアクションにつながるヒントを得られる場となることを目指しておりますので、今後ともご注目ください。

（主任研究員 岩崎比奈子）